

理科

➔ 4年生 | 「季節と生き物 (春)」

毎朝、教室に自然を！ 「はしりもの・かわりだね」

1. 「はしりもの・かわりだね」のススメ

「はしりもの・かわりだね」とは、自然を教室に持ち込む授業、季節を知る勉強です。子どもたちが、登下校時に学校と家の間の野の花や虫、自然のことなどを探してきて教室に持ち込む活動です。

「はしりもの」とは、季節の先駆けの植物や動物のこと、「かわりだね」とは、その種で変わった形態のもののことです。(例えば、四つ葉や七つ葉のクローバーなど)

この活動によって、子どもたちが身近な自然に関心をもつようになり、また、持ち込まれた植物・動物によって、実物の観察の幅が広がり、理科の授業も様々な展開が可能になります。



2. 「はしりもの・かわりだね」のやり方

「はしりもの・かわりだね」のスタートは、「学校に来る途中や、家に帰って遊んでいる時に、野の花や虫などを見つけたら、教室に持ってきて、先生やみんなに見せてね」と子どもたちに働きかけます。

子どもたちが持ってきたものは、「朝の会」などで口頭で発表させます。発表の内容は、①持ってきた野の花や虫の名前、②どんなどころで採ったかなど。季節の先駆け「はしりもの」の持ち込みを大いにほめます。

そのあと、その花や虫の形とくらしなどについて簡単に話し合い、自然についての理解を深めます。

教室には、植物図鑑や昆虫図鑑などを何冊か置いておき、名前を調べることができるようにしておきます。さらに、子どもたちの発表は学級通信などに載せて、発表への意欲を高めるとともに、一人ひと

りの発表をクラス全員のものにします。

この「はしりもの・かわりだね」活動は、これから展開される植物や動物学習の下地にもなっていきます。また、「はしりもの・かわりだね」を1年間続けることで、子どもたちに身近な自然に目を向けさせ、季節を肌で感じる子どもに育てることができます。

3. 長い茎のタンポポを探そう

「はしりもの・かわりだね」では、長い花茎のタンポポ探しなどに子どもたちが夢中になり、誰が一番長いタンポポを見つけるか、競争になります。タンポポは、花が終わり実が熟すと、綿毛のパラシュートを使い、風に乗って種が遠くへ旅をします。その時にタンポポの花茎は風を受けやすいように、長く長く伸びるのです。1m近くになるものもあります。仲間を増やし子孫を残すために、うまい仕組みになっていることに気づかせます。



4. 動物は2～3日飼育・観察

「はしりもの・かわりだね」では、植物だけでなく、虫やトカゲなど、動物も教室に持ち込まれるようになります。動物が持ち込まれた時には、食べもの、すみか、身の守り方など、その動物の「くらし」やそれに適応した「体の形」を必ず話題にするようにします。教室には飼育ケースをいくつか用意して、持ち込まれた動物を2～3日だけ飼育します。動物の体の仕組みや食べる様子などのくらしも観察できます。